

2023年9月8日

蟹江憲史

第16回円卓会議の開催にあたり、以下の意見を提出いたします。

1. SDGs サミット開催にあたり、以下の点の表明が重要であると考えます。

- SDGs の実施は 2030 年以降も継続することを明らかにし、日本として持続的にこのアジェンダの実施にコミットし、リーダーシップを発揮すること。
- 上記に関連し、2030 年以降のアジェンダ実施の方向性について、対話を開始する提案を行うこと。
- 国民の認知率が 8 割を超えていることを強調すること。
- 科学と政策・社会の連携の重要性を確認すること。特に、エビデンスに基づく政策形成及び進捗管理の重要性を強調すること。

2. SDGs 実施指針の改定に関しては、以下の点が重要であると考えます。

- 改定へ向けたロードマップを提示していただき、円卓会議構成員との連絡については、連絡会としての分科会の設置のご検討をお願いしたいと思います。
- 改定の中身に関しては、以下の点のご検討が重要だと考えます。
  - ① 制度的な側面の強化。特に、推進本部との円卓会議の関係改善が必要です。このため、現在「SDGs 推進本部の下に開催する」とされ、会議の内容については「意見交換」となっている円卓会議について、SDGs 推進本部へのアドバイスをを行う、とするものへの改訂が必要だと考えます。これにより、国際的にも National Advisory Board としての位置づけが明確になると考えます。
  - ② 円卓会議の内容に、国民との対話を入れていただき、その際の予算措置をお取りいただけるように改定することを要望します。
  - ③ 現在「円卓会議及び分科会の開催に係る事務は、外務省その他関係行政機関の協力を得て、内閣官房において処理する。」とされている事務局については、内閣官房における事務局機能を強化する方向で検討していただきたいと考えます。
  - ④ すでに存在する中長期目標を包含することや、可能な限り3月17日提出の提言内容を盛り込むことを含め、実施指針に日本におけるターゲットを盛り込むことで、2030 アジェンダ パラ 55 記載の「ターゲットは、地球規模レベルでの目標を踏まえつつ、各国の置かれた状況を念頭に、各国政府が定めるものとなる。」に対応していただきたいと考えます。
  - ⑤ 各省・自治体の政策評価に SDGs への貢献の観点から評価するとの項目を入れることで、VNR 等のプロセスが効果的に進むようにしていただきたいと考えます。